

## 群馬県吾妻郡嬭恋村議会

### 1 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

嬭恋村では平成元年度から13年度までの間、総事業費304億円の国営農地開発事業が行われた。また、冬場の雇用を目指し、昭和59年に開設された村営バラギ高原嬭恋スキー場会計の不良債務と併せ、平成20年度決算において「実質公債費比率」が26.7%と、早期健全化基準である25%を超えたため、平成21年度に財政健全化団体となった。

財政健全化団体となった嬭恋村は、財政健全化計画を策定するとともに、平成18年度から取り組んでいた独自の第三次財政健全化計画を策定し、平成21年度決算において、実質公債費比率が24.7%に改善されたため、平成22年9月に財政健全化団体から脱却することができた。

財政再建における歳出の取り組みとして、退職者不補充による職員数の削減や議員提案による議員の報酬削減とともに村長特別職の報酬・管理職手当・職員給与の減額は、平成18年4月から平成27年3月まで続けられた。

また、財政がひっ迫するなか、行財政改革の観点と人口減少を考慮し、議員発議による議員定数条例の一部改正も実施してきた。これにより、平成18年5月からは議員定数18名を14名とし、さらに平成27年5月からは12名としている。

嬭恋村は、浅間山の北麓に広がる広大な高原に3,000haの農地と1万棟に及ぶ別荘、万座温泉・鹿沢温泉をはじめとした豊富な温泉にも恵まれている。

このことから、外国人等の土地取得に対して地下水等の採取など水保全等に対処するために、議員提案により、平成24年1月に嬭恋村開発事業等の適正化に関する条例の一部改正をおこない、水資源の保全と自然環境及び景観の保全形成を図るため、地下水及び湧水の採取について規制項目の追加を行った。

また、高原の広大なキャベツ畑と地形を活かし、嬭恋高原キャベツマラソンが行われている。キャベツマラソンは平成19年に、村議会の観光振興特別委員会により提案された。

同年にはマラソン準備委員会が組織され、1年間の検討期間を経て平成20年から開催されている。標高1,200mから1,370mの高低差を活かした日本一過酷なロードレースとして人気を博し、全国ランニング大会100選に名を連ねている。

また、平成27年度議会活動の一環として村創生特別委員会を設置し、「仕事創出」「人口対策」「福祉・教育」をテーマに調査検討を重ね、これらをもとに平成28年度予算編成においては、具体的に施策の提言をおこなった。

さらに、平成28年月7日には、議員発案により、太陽光発電設備の適切な設置誘導等が図られるよう嬭恋村開発事業等の適正化に関する条例の一部改正を行い、太陽光発電設備の設置における規定を設けた。

今後も嬭恋村議会一丸となって積極的に提言し、住民の声を村政に反映させるべく、議員一人一人が、日々研鑽・努力を重ねている。